

第 18 回日本消化管学会学術集会・第 15 回日本カプセル内視鏡学会学術集会
合同セッション
「小腸疾患の最前線」

司会 山本 博徳（自治医科大学内科学講座消化器内科学部門）
大宮 直木（藤田医科大学消化器内科学）

バルーン内視鏡やカプセル内視鏡、CT、MRI をはじめとする各種診断機器の開発により小腸診断学は飛躍的に向上した。近年では、人工知能による画像診断支援、スパイラル内視鏡、超拡大内視鏡や共焦点レーザー内視鏡などの先端技術の導入が試みられている。また、小腸内細菌異常増殖症(SIBO)や Leaky gut 症候群の診断の必要性も増している。治療においては、各種薬剤や内視鏡を用いた独創的な取り組みが行われている。

本セッションでは小腸疾患の診断と治療における最新の知見をご発表頂き、この領域の今後の展望について討論したい。